



Index

P 1. 株主の皆様へ	P11. FOCUS-13
P 2. 社長インタビュー	P13. 会社概要
P 5. 連結業績ハイライト	P15. 当社グループの主な製品
P 6. 連結業績の概要	P16. 株式の状況
P 7. セグメントの業績	P17. 配当方針について
P 8. 連結財務諸表	P18. ホームページのご案内
P10. トピックス	

株主の皆様へ



株主の皆様には、日ごろより絶大なるご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。第61期上半期(2013年4月1日から2013年9月30日まで)の事業内容をご報告するにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

第61期上半期の経営環境は、国内外の自動車業界においては、回復の兆しが見えつつありますが、一方で、グローバルでの受注獲得競争はさらに激化しております。

このような情勢のもと、当社グループは、第11次中期計画最終年度にあたり、その目標達成に向け、主要事業のSEDB(営業・生産・製品開発・購買)機能強化、海外拠点の体質強化及び販路の拡大、新規事業推進体制の充実、業務プロセスの改革と人材育成のさらなる強化に取り組んでまいりました。

当上半期の連結業績につきましては、体質向上による原価改善効果などはあったものの、自動車部品及び自動車組立における受注の減少、研究開発の強化に伴う費用の増加などにより、前年同期に比べ減収減益となりました。

当社グループは、企業理念の実践を通じて『社会からその存在を認められ、期待される企業』を目指し、一人ひとりが変革へのスピードと質を上げて、『有言実行』で邁進してまいります。

株主の皆様には、引き続き当社グループの活動に対するご理解とご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

2013年11月

代表取締役社長

辻井 元

社長インタビュー ヤチヨグループの成長戦略



Q まず現在の事業環境と市場動向に対する認識からお聞かせください。

A 米国を中心に自動車需要が回復し、経営環境は概ね良好に推移しています。

第61期上半期の経営環境は、円安による海外売上高の底上げに加え、米国やアジアで自動車需要が回復してきたこともあって、比較的良好な状態で推移しました。とくに米国の景気回復は本物であり、この先も一定期間、好況が持続するものと見ています。一方、中国市場はヨーロッパ向けの生産が伸び悩むなど、依然として不透明感が拭えない状況にあります。中長期的に伸びる市場であることは間違いありませんが、当面はその動きを注視する必要があります。

るでしょう。

第61期下期については、懸念事項も多く、市場の動向を慎重に見極めていきたいと考えています。

Q 第61期上半期の主な取り組みと成果を紹介してください。

A 営業、開発、生産など全事業領域で多くの成果を残すことができました。

この半年間、当社グループは最終年度を迎えた第11次中期計画「変革と仕込みの期」の目標達成を見据えて、さまざまな経営施策を実行しました。量産開発部門の栃木研究所と次世代技術の開発を担う

■ ヤチヨ2020年 Vision マイルストーン

第11次中期

変革と仕込みの期

- ・グローバルで存在を認知される技術・製品の競争力を身につける
- ・営業展開による新規顧客の獲得
- ・客先ニーズに応える商品開発ができる
- ・新規事業へ参入する

第12次中期

育成の期

- ・グローバルでトップクラスの技術・製品の競争力を獲得する

第13次中期

収穫の期

- ・グローバルでトップクラスの技術・製品の競争力を実現する

2020

卓越した技術と
特長ある製品で
真の世界ワイド
プレイヤーになる

社会から存在を
期待される企業へ

企業理念の共有と実践
人材開発の継続

埼玉研究所を両輪に先鋭的な研究開発を進めると同時に、主要事業のSEDB(営業・生産・製品開発・購買)機能強化に努めました。また「生産現場では徹底した」品質の確保と生産性の向上を目指して、YBQ(Yachiyo Best Quality)とTPM(Total Productive Maintenance)活動を行ってきました。

こうした取り組みにより、おかげさまで新たに2社様とお取引させて頂くことができました。これは、長年、部品事業と完成車事業を通じて車づくりをトータルで考えるための技術とノウハウを持った当社ならではの強みが提案できた結果だと考えています。



Q 新規事業の創出と事業化はどの程度まで進んでいますか。

A 抗菌剤「イオンフレアー」とエネルギーストレージ製品を展開しています。

二つご紹介したいと思います。一つは、銀イオンを活用した抗菌剤「イオンフレアー」で、本年7月より販売を開始し、BtoC事業に参入しました。今後は、高齢化社会の拡大と地球規模での環境変化から起こり得る感染症への不安などが大きな課題であると認識し、その解消にお役に立てる事業に育てていきます。そのためにも早期に抗菌を必要とする工業製品へ登用し、「イオンフレアー」のブランド力強化に努めてまいります。

もう一つはエネルギーストレージ製品です。当社は自動車用燃料タンクを手掛けるメーカーとして、ガソリン以外の貯蔵機器を開発しています。当社で生産している樹脂製燃料タンクの4種6層構造の技術を応用し、樹脂製LPガス容器＝「LPGコンポジット容器」を開発して、現在は東南アジアを戦略市場として展示会への出品やガス会社へのサンプル提供を行っています。また、燃料電池車の普及をにらんで水素ガスストレージを開発していきます。

Q ヤチヨグループの中長期的な成長戦略を教えてください。

A 新しい技術・製品を継続的に生み出せる企業グループを創造します。

当社グループは「ヤチヨ2020年Vision」において「卓越した技術と特長ある製品で真の世界ワイドプレイヤーになる」ことを目標に掲げました。ヤチヨを新しい技術や製品を継続的に生み出していける企業グループに育て上げること、それが私の使命だと考えています。

いま自動車産業は2極分化の時代に入っています。自動車の普及が本格化しつつある新興国では低価格化と小型化が加速しており、一方、先進国市場では環境対応と高付加価値の流れがあるのが現状です。当社グループはこの異なる二つのニーズに応えるため、量産品については生産の効率化を通じて原価の低減を図り、他方では先端技術を駆使して魅力ある製品をつくり出していきます。どちらが欠けても厳しいグローバル競争を勝ち抜いていくことはできません。



つじい げん
辻井 元

プロフィール

1955年 兵庫県生まれ
1977年 本田技研工業(株)入社
2005年 同社執行役員
2009年 当社入社 代表取締役副社長
2012年 代表取締役社長

Q 2020年Visionの達成に向けてとくに対処すべき課題は何でしょうか。

A グローバルに活躍する人材の育成が最重要課題です。

グローバルオペレーションの高度化と世界を舞台に活躍する人材の育成を最重要課題と位置づけています。とくに「ヤチヨ2020年Vision」を達成するには継続的な人材開発が欠かせません。日本人従業員の教育研修に力を注ぐとともに、海外拠点のマネジメント層を対象にリーダー研修を実施し、企業理念と戦略目標の共有化を図っています。

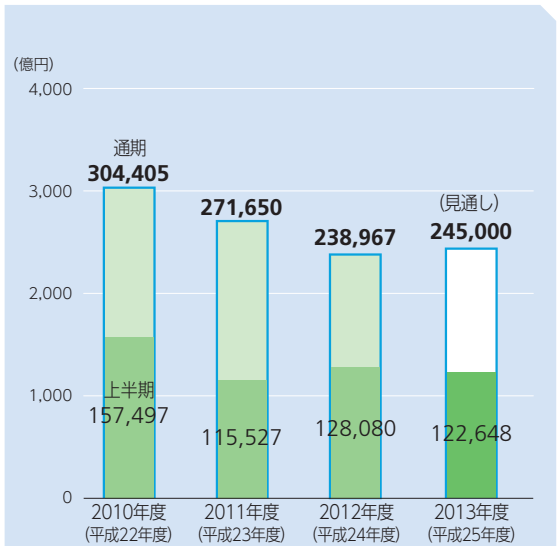
こうした取り組みにより、海外拠点の従業員の意識も大きく変わってきました。以前は自拠点に関心が集中していましたが、現在では、ヤチヨグループに参画し、世界の仲間とともにその成長を牽引していくという前向きな姿勢が見られるようになっていきます。

第61期も残り半年を切っていますが、グループの人材力を結集して、第11次中期の総仕上げに邁進してまいります。ヤチヨグループの今後にどうぞご期待ください。

連結業績ハイライト

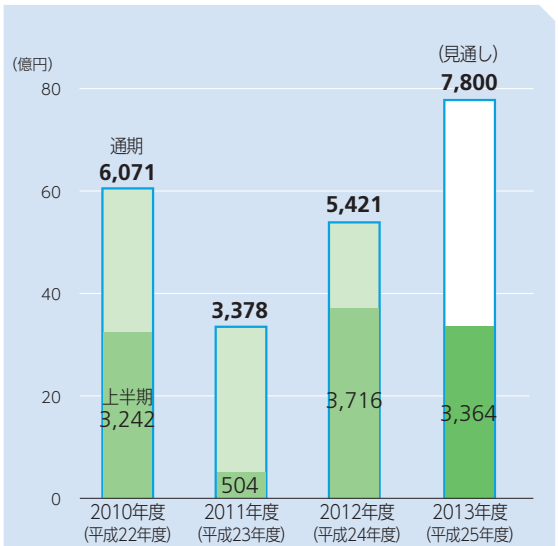
売上高

(単位：百万円)



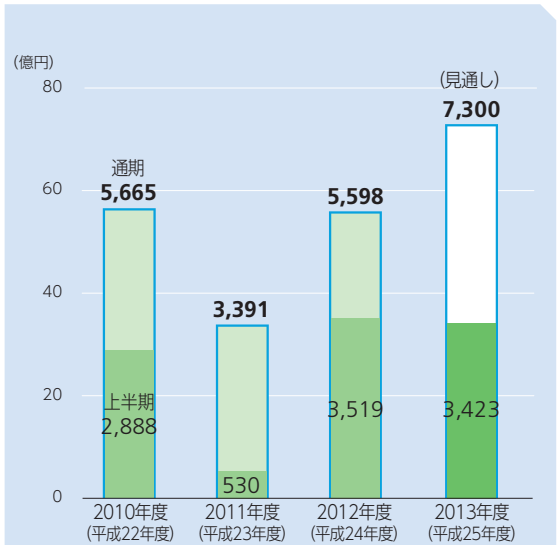
営業利益

(単位：百万円)



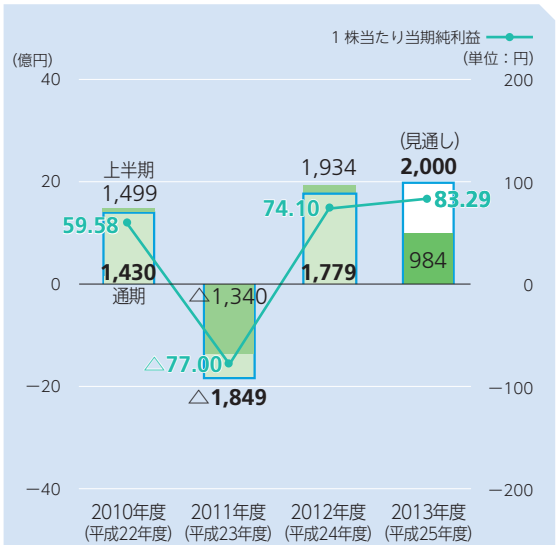
経常利益

(単位：百万円)



当期純利益・1株当たり当期純利益

(単位：百万円)



連結業績の概要

当上半期の概況

売上高

122,648百万円
(前年同期比 4.2%減)

営業利益

3,364百万円
(前年同期比 9.5%減)

経常利益

3,423百万円
(前年同期比 2.7%減)

四半期純利益

984百万円
(前年同期比 49.1%減)

当上半期の売上高は、為替換算上の影響はあったものの、自動車部品及び自動車組立における受注の減少などにより、1,226億 4 千 8 百万円と、前年同期に比べ54億 3 千 1 百万円、4.2%の減収となりました。利益につきましては、原価改善効果や為替換算上の影響などはあったものの、減収に伴う利益の減少や研究開発費の増加などにより、経常利益は、34億 2 千 3 百万円と前年同期に比べ 9 千 6 百万円、2.7%の減益となりました。四半期純利益は、9 億 8 千 4 百万円と固定資産売却益を計上した前年同期に比べ9 億 5 千万円、49.1%の減益となりました。

通期の見通し

売上高

245,000百万円
(前年度比 2.5%増)

営業利益

7,800百万円
(前年度比 43.9%増)

経常利益

7,300百万円
(前年度比 30.4%増)

当期純利益

2,000百万円
(前年度比 12.4%増)

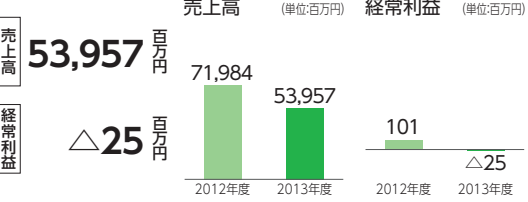
通期(2013年 4 月 1 日～2014年 3 月31日)の業績予想につきましては、上半期の売上高については、自動車組立分野の生産台数の増加及び機種構成変化による増加や自動車部品分野における中国、アジアでの受注の増加及び為替影響などにより、前回予想(2013年 4 月26日発表)を上回ることとなりました。利益については、増収に伴う利益の増加や原価改善効果及び為替影響などにより、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前回予想を上回ることとなりましたが、下半期の業績は、自動車組立分野の生産台数は増加の見通しではありますが、自動車部品分野の受注が減少となる見通しであるため、通期の業績予想は変更しておりません。

※業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した予想であり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は様々な要因の変化により、記載の業績予想とは大きく異なる結果となり得ますことをご告知おきください。

セグメントの業績(上半期)

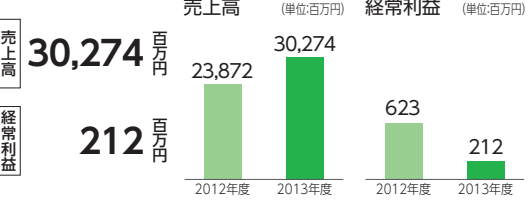
■上半期

日 本



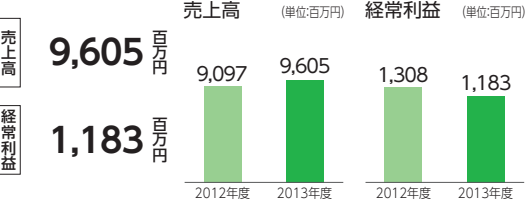
日本においては、自動車部品及び自動車組立における受注の減少などにより、売上高は、539億5千7百万円と前年同期に比べ180億2千6百万円、25.0%の減収となりました。経常利益は、原価改善効果などはあったものの、減収に伴う利益の減少や研究開発費の増加などにより、2千5百万円の損失となり、前年同期に比べ1億2千7百万円の減益となりました。

米 州



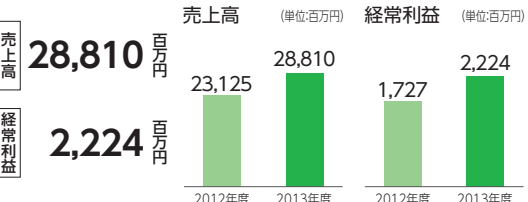
米州においては、連結子会社であるヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アラバマ エル エル シー(米国)、ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド(米国)における受注の増加や、為替換算上の影響などにより、売上高は302億7千4百万円と前年同期に比べ64億1百万円、26.8%の増収となりました。経常利益は、増収に伴う利益の増加はあったものの、研究開発費の増加や2013年11月に操業開始のヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ(メキシコ)の操業準備費用などにより、2億1千2百万円と前年同期に比べ4億1千万円、65.8%の減益となりました。

中 国



中国においては、連結子会社である八千代工業(中山)有限公司(中国)及び八千代工業(武漢)有限公司(中国)における受注の減少はあったものの、為替換算上の影響などにより、売上高は、96億5百万円と前年同期に比べ5億8百万円、5.6%の増収となり、経常利益は、11億8千3百万円と前年同期に比べ1億2千4百万円、9.5%の減益となりました。

ア ジ ア



アジアにおいては、連結子会社であるゴウシ タンロン オート パーツ カンパニー リミテッド(ベトナム)における受注の増加や、為替換算上の影響などにより、売上高は、288億1千万円と前年同期に比べ56億8千4百万円、24.6%の増収となりました。経常利益は、2013年8月に操業を開始したピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア(インドネシア)の操業準備費用などはあったものの、為替換算上の影響などにより、22億2千4百万円と前年同期に比べ4億9千7百万円、28.8%の増益となりました。

連結財務諸表

■四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)
(単位未満切り捨て)

	前年度末 (2013年3月31日現在)	当上半期末 (2013年9月30日現在)
(資 産 の 部)		
流 動 資 産	45,853	54,684
現金及び預金	9,728	13,358
受取手形及び売掛金	24,080	28,015
た な 卸 資 産	8,434	8,026
そ の 他	3,610	5,283
固 定 資 産	75,361	78,092
有形固定資産	71,806	74,028
無形固定資産	867	1,044
投資その他の資産	2,687	3,020
資 産 合 計	121,215	132,777

●資産合計

資産合計は、1,327億7千7百万円と前年度に比べ115億6千2百万円の増加となりました。増加した要因は、受取手形及び売掛金や現金及び預金の増加、また、為替換算レート差による円換算額が増加したことなどによるものであります。

●負債合計

負債合計は、857億4千6百万円と前年度に比べ45億9千9百万円の増加となりました。増加した要因は、支払手形及び買掛金や長期借入金の増加、また、為替換算レート差による円換算額が増加したことなどによるものであります。

	前年度末 (2013年3月31日現在)	当上半期末 (2013年9月30日現在)
(負 債 の 部)		
流 動 負 債	60,403	59,746
支払手形及び買掛金	23,504	26,868
短 期 借 入 金	15,971	15,716
1年内返済予定の長期借入金	8,398	8,081
賞 与 引 当 金	1,863	1,889
そ の 他	10,665	7,190
固 定 負 債	20,743	26,000
長 期 借 入 金	12,496	14,662
退職給付引当金	6,826	7,234
そ の 他	1,420	4,102
負 債 合 計	81,147	85,746
(純 資 産 の 部)		
株 主 資 本	38,268	40,117
資 本 金	3,685	3,685
資 本 剰 余 金	3,504	3,504
利 益 剰 余 金	31,103	32,952
自 己 株 式	△24	△24
その他の包括利益累計額	△4,529	△559
少 数 株 主 持 分	6,329	7,473
純 資 産 合 計	40,068	47,030
負 債 純 資 産 合 計	121,215	132,777

●純資産合計

純資産合計は、470億3千万円と前年度に比べ69億6千2百万円の増加となりました。増加した要因は、為替換算調整勘定や利益剰余金が増加したことなどによるものであります。

■ 四半期連結損益計算書(要旨) (単位:百万円
単位未満切り捨て)

	前上半期 (自 2012年4月 1 日 至 2012年9月30日)	当上半期 (自 2013年4月 1 日 至 2013年9月30日)
売 上 高	128,080	122,648
売 上 原 価	116,824	110,568
売 上 総 利 益	11,255	12,079
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	7,538	8,715
営 業 利 益	3,716	3,364
営 業 外 収 益	216	324
営 業 外 費 用	413	265
経 常 利 益	3,519	3,423
特 別 利 益	573	53
特 別 損 失	109	98
税金等調整前四半期純利益	3,984	3,378
法 人 税 等	1,489	1,582
少数株主損益調整前四半期純利益	2,495	1,795
少 数 株 主 利 益	560	811
四 半 期 純 利 益	1,934	984

■ 四半期連結包括利益計算書(要旨) (単位:百万円
単位未満切り捨て)

	前上半期 (自 2012年4月 1 日 至 2012年9月30日)	当上半期 (自 2013年4月 1 日 至 2013年9月30日)
少数株主損益調整前 四 半 期 純 利 益	2,495	1,795
そ の 他 の 包 括 利 益	14	4,302
四 半 期 包 括 利 益	2,509	6,098
(内訳)		
親 会 社 株 主 に 係 る 四 半 期 包 括 利 益	1,979	4,954
少 数 株 主 に 係 る 四 半 期 包 括 利 益	530	1,143

より詳細な財務情報は、当社HPをご覧ください <http://www.yachiyo-ind.co.jp/ir/>



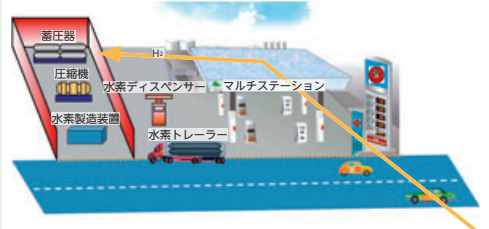
2013年5月 NEDOの公募事業「水素利用技術研究開発事業」の委託先に採択

ヤチヨは、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が公募した水素利用技術研究開発事業に応募し、炭素繊維メーカーの東邦テナックス株式会社との連名契約で共同委託先として採択されました。

研究開発テーマは「水素ステーション用低コスト機器・システム及びその構成材料等に関する研究開発」で、今回の研究対象は、高圧水素を貯蔵する水素ステーション用蓄圧器となります。

環境問題とエネルギー問題が深刻化した今、水素をエネルギー源とする燃料電池車への期待が高まっており、水素ステーションの普及が必要となっております。その実用化に向けては、建設費と供給量に課題があり、ヤチヨは蓄圧器に求められる低コスト化、大型化を実現するために、樹脂ライナーコンポジット容器の研究開発を始めております。

水素ステーションのイメージ



イメージ図提供:
新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

蓄圧器イメージ



2013年8月 インドネシアの新会社が操業を開始

インドネシアにおける樹脂製燃料タンクの生産会社ピーティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア(YTI)は、2013年7月3日に開所式を行い、8月から操業を開始いたしました。

開所式は、お取引先をはじめ、工場建設や設備導入に携わっていただいた方々にもご臨席いただき、YTIアソシエイトを含めた約70名が列席し、執り行われました。

YTIの年間生産能力は25万台で、ピー ティー ホンダ プロスペクト モーターの生産機種であるフリード、ブリオ向けに供給しております。



元気あふれるYTIアソシエイト



操業を開始したYTIの工場全景

YTIの立地は、半径20km以内にHondaを始めとした完成車メーカー4社が近在しております。この強みを活かし、今後さらなる成長が期待されるインドネシアの自動車市場において、1台でも多くのYTI製樹脂製燃料タンクを供給できるよう、新規販路の拡大に向けて営業活動にも力を入れてまいります。

銀イオンを活用した抗菌剤「イオンフレアー」による新たな分野への挑戦

ヤチヨは、部品事業の拡大を図る一方、企業の持続的発展を考え、自動車分野以外にも目を向けた事業化にチャレンジしており、ヤチヨがこれまで培ってきた技術やノウハウを活かした、新たな事業の検討を進めております。

そのような中、昨年には、次世代技術の研究開発を担う埼玉研究所が稼働し、2013年7月にこの埼玉研究所初となる新製品を誕生させました。これまであらゆる挑戦を続けてきたヤチヨ創立60年での小さな産声です。私たちは、この新たな分野への挑戦を大きく成長させていきたいと考えております。



次世代技術の研究開発を担う埼玉研究所

銀イオンの抗菌性へ着眼

新たな事業の検討を重ねた結果の一つとして、高齢化社会の拡大と、地球規模での環境変化から起こり得る感染症への不安などが大きな課題であると認識し、銀イオンの抗菌性に着目しました。そして、その銀イオンを活用した抗菌をテーマとした製品を開発し、社会に貢献していきたいと考えました。

銀イオン抗菌剤「イオンフレアー」について

銀は水分と接触するとイオン化して溶出し、その周囲に抗菌効果をもたらします。

ヤチヨでは、銀の抗菌性能を持続的に発揮できるよう、銀の粒子を水溶性ガラスに担持させたパウダータイプ「イオンフレアーパウダー」と、銀の粒子を液体の中でコロイド状（液体の中で細かく散らばせた状態）に安定させた「イオンフレアーリキッド」の2種類の原材料を用意し、各用途に応じた使い分けができるようにしました。

(原材料)



イオンフレアーパウダー



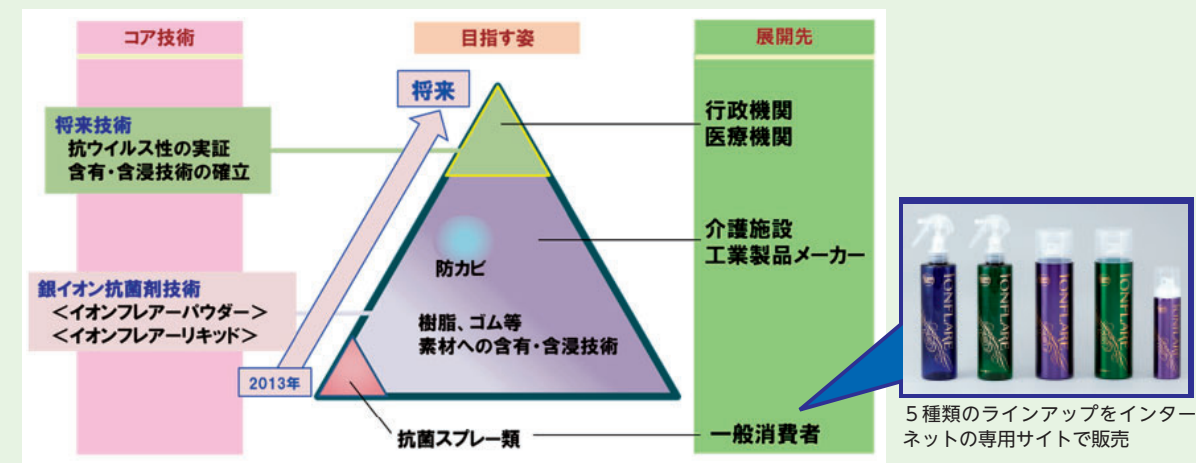
イオンフレアーリキッド

工業製品の抗菌化及び抗ウイルス剤の研究開発を展開

「イオンフレアー」はゴムや樹脂、木材などの素材に含有、含浸させることができ、多くの工業製品を抗菌化することが可能です。現在、各素材の抗菌性、防カビ性、成形性、製造方案などの実証実験を進めております。

今後、抗菌を必要とする製品への採用を目指し、「イオンフレアー」を必要としていただける企業や研究機関への供給体制を整えてまいります。

また、抗菌効果のほか、ウイルスなどの感染症予防への展開を目標に、「イオンフレアー」を使用した抗菌、抗ウイルス剤の研究開発を、防衛医科大学校の協力を得ながら進めております。

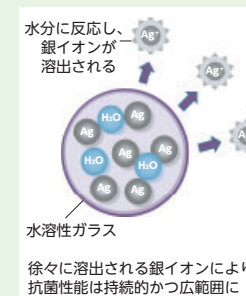


抗菌剤「イオンフレアー」の目指す姿

抗菌・消臭スプレーを発売

この抗菌・消臭効果をより身近に感じていただくために、抗菌剤「イオンフレアー」を使用した商品の第1弾として、抗菌・消臭スプレーを開発し、販売しております。

特長は、独自技術によって、銀の抗菌性能を持続的に発揮することです。エアゾールタイプで使われている粉状の銀は、水溶性ガラスの中に銀を留め、水や大気中の水分と反応して水溶性ガラスの外側に向かって銀イオンを徐々に溶出させることが可能になりました。これにより、抗菌効果が持続するだけでなく、従来より抗菌範



囲を広げることにも成功しました。

また、イオンフレアー抗菌・消臭スプレーは、抗菌効果のほかに消臭効果もあり、生活の嫌なニオイ（汗、靴、生ごみ、糞など）をしっかり消臭し、銀イオンとの相乗効果で、消臭効果が持続します。

ヤチヨはこれを機に、一般のお客さまへの販売を始めました。

今後は、工業製品の抗菌化を目的とする原材料の販売へ向けた動きを加速し、「イオンフレアー」ブランドの強化に努めてまいります。

ヤチヨオンラインショップ
<http://yachiyo-shop.com/>



■会社概要

社 名 八千代工業株式会社
英文社名 Yachiyo Industry Co., Ltd.
設 立 1953年8月27日
資 本 金 3,685,600,000円
従業員数 1,541名
本 社 〒350-1335
埼玉県狭山市柏原393番地
04-2955-1211 (代表)

■取締役及び監査役

代表取締役社長 辻井 元
代表取締役専務取締役 板井 一良
並木 明
本告 次男
常 務 取 締 役 太田 康
取 締 役 朝吹 和博
監 査 役 (常 勤) 坂田 英男
佐野 正彦
監 査 役 山室 恵
村松 昌信

■執行役員

常 務 執 行 役 員 小野 潤
執 行 役 員 藤本 朋宏
榎田 進
金生谷 康
花田 英明
北村 哲也
橋本 伸次
伊東 良和

■国内拠点(10拠点)

●合志技研工業株式会社
熊本県合志市



二輪部品

●株式会社ウエムラテック
熊本県球磨郡あさぎり町



二輪部品

●四日市製作所
三重県四日市市



軽自動車受託生産

●鈴鹿工場
三重県鈴鹿市



燃料タンク、樹脂部品

●亀山事業所
三重県亀山市



燃料タンク、補修部品

●株式会社ワイジーテック
三重県員弁郡東員町



板金部品

●本社
埼玉県狭山市



燃料タンク、補修部品

●柏原工場
埼玉県狭山市



サンルーフ、燃料タンク、樹脂部品

●埼玉研究所
埼玉県狭山市



研究開発

●栃木研究所
栃木県さくら市



研究開発

■海外拠点(10か国16拠点)

●イギリス
ユー・ワイ・ティー
リミテッド(関連会社)



板金部品

●中国
八千代工業(中山)
有限公司



燃料タンク、サンルーフ

八千代工業(武漢)
有限公司



燃料タンク、サンルーフ

●カナダ
ヤチヨ オブ オンタリオ
マニュファクチャリング
インコーポレーテッド



燃料タンク、板金部品

●アメリカ
ヤチヨ オブ アメリカ
インコーポレーテッド



研究開発

エー・ワイ
マニュファクチャリング
リミテッド



サンルーフ

●アメリカ
ユー・エス・ヤチヨ
インコーポレーテッド



燃料タンク

ヤチヨ
マニュファクチャリング オブ
アラバマ エル・エル・シー



燃料タンク、板金部品

●メキシコ
ヤチヨ メキシコ
マニュファクチャリング
エス・エー・デ・シー・ビー



燃料タンク、サンルーフ

●ブラジル
ヤチヨド ブラジル
インダストリア エ・コメルシオ
デ・ペサス リミターダ



燃料タンク

●インド
ヤチヨ インディア
マニュファクチャリング
プライベート リミテッド



燃料タンク

●インド
ゴウシ インディア
オートパーツ
プライベート リミテッド



二輪部品

●タイ
サイアム ヤチヨ
カンパニー リミテッド



燃料タンク、樹脂部品

●タイ
サイアム ゴウシ
マニュファクチャリング
カンパニー リミテッド



二輪部品

●インドネシア
ビー・ティー ヤチヨ
トリミトラ インドネシア



燃料タンク

●ベトナム
ゴウシ タンロン
オートパーツ
カンパニー リミテッド



二輪部品

連結子会社 ヤチヨ インダストリー(ユークー) リミテッド(イギリス)
関 連 会 社 ヒラタ ヤチヨ リーシング リミテッド(イギリス)

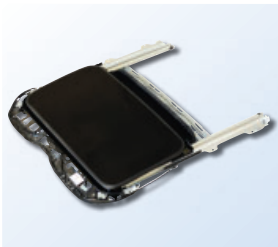
当社グループの主な製品

四輪部品

樹脂製燃料タンク



サンルーフ



板金部品



二輪部品

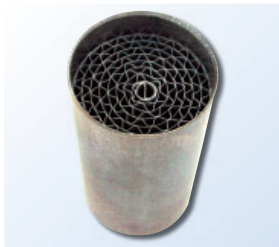
マフラー



フレーム



キャタライザー



完成車

アクティ・トラック



バモス



ライフ助手席リフトアップシート車



株式の状況

株式の状況 (2013年9月30日現在)

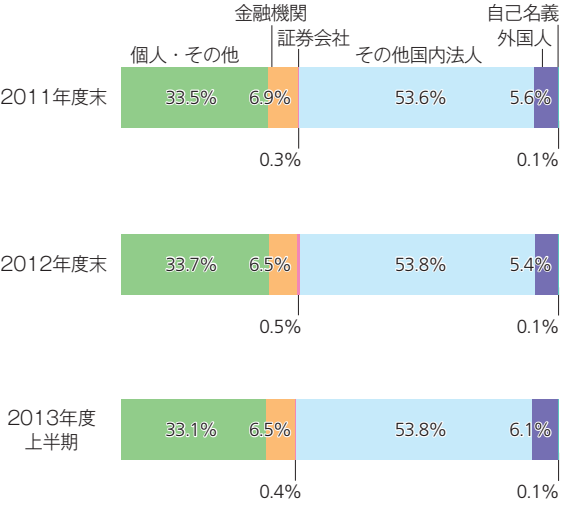
発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式の総数	24,042,700株
株主総数	3,206名

大株主の状況 (2013年9月30日現在)

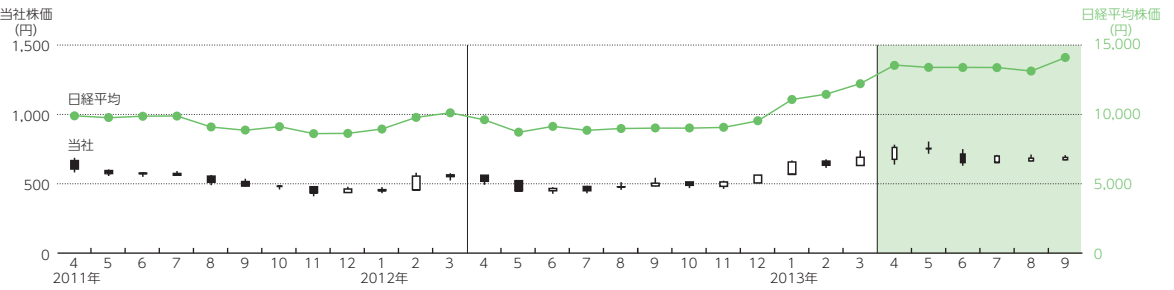
氏名又は名称	持株数(千株)	持株比率(%)
本田技研工業株式会社	12,103	50.3
大竹榮一	1,312	5.5
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド(プリンシパル オール セクター サポート フォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	1,000	4.2
大竹好子	500	2.1
株式会社三井住友銀行	457	1.9
八千代工業従業員持株会	453	1.9
埼玉車体株式会社	438	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	351	1.5
株式会社三菱東京UFJ銀行	350	1.5
大竹譲司	232	1.0

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の持株数は、全て信託業務に係る株式であります。

所有者別株式分布状況

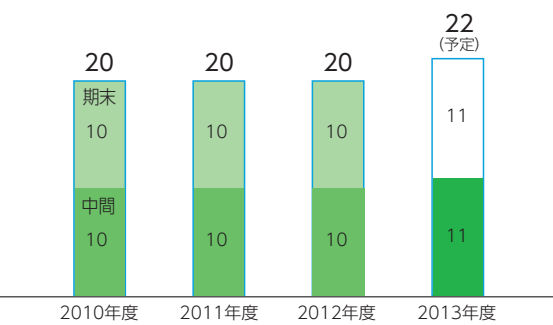


株価の推移



■配当金の推移

(単位:円)



■株式のご案内

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
基準日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(特別口座の口座管理機関) 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉
二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 0120-782-031
ご利用時間9:00~17:00(銀行休業日を除く)
同 取 次 窓 口 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、世界的視野に立って事業を展開し、企業価値の向上に努めております。
成果の配分にあたりましては、今後の資金需要などを総合的に考慮し、配当につきましては、長期的な視点に立ち連結業績を考慮しながら実施することを方針としております。

(お知らせ)
住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

トップページ <http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

八千代工業 検索



製品情報
<http://www.yachiyo-ind.co.jp/products/>



投資家向け情報
<http://www.yachiyo-ind.co.jp/ir/>



ヤチヨオンラインショップ
<http://yachiyo-shop.com/>



イオンフレア 検索



銀イオン抗菌剤を活用した「イオンフレア抗菌・消臭スプレー」をお買い求めいただけます。